

2014～15年度 クラブテーマ

『和を以て貴しとなす』

第1945回 例会

2015年2月18日(水) くずはゴルフ場



例会プログラム

2月世界理解月間

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●12:30 開会点鐘 ●友情と親睦の握手 ●ロータリーソング
「四つのテスト」 ●お客様紹介 ●お食事・歓談 ●会長の時間 ●幹事報告 ●委員会報告
・出席状況報告ほか | <ul style="list-style-type: none"> ●3分間スピーチ 森川正敏会員 ●卓話「外国人労働者の受け入れ問題
について」 原 正和 委員長 ●その他 ニコニコBOX報告 ●13:30 閉会の点鐘 ●本日の会合
<被選理事会> (敬称略)
小北、上山、原田、山口尚志、米田
多田、稲田、岩本、橘、粟津、源本
木崎、川島 |
|--|---|

本日の歌

「四つのテスト
真実か どうか
みんなに 公平か
好意と友情を
深めるか
みんなのために
なるかどうか

今後の予定

2月25日(水)

- ・卓話
「識字率向上月間に因んで」
稲田義治 社会奉仕委員長
- ・規定審議・長期計画合同委員会

3月 4日(水)

- ・卓話 中村雄策 会員
- ・定例理事会

3月11日(水)

- ・外部卓話「北タイ子供支援
の実情と課題」
原田義之 様 (チェライRC)

3分間スピーチ

2月25日 瀬川 裕一 会員

3月 4日 ー

3月11日 西田英夫 会員

2014-15年度R | 2660地区 | M第3組

インターシティミーティング報告

2015年2月14日(土) 大東市立市民会館



講師の角淳一氏

出席者 : 原田、日野、岩本、駕田、北川、北村、小北、國田、岡山、橘
(敬称略) 高島、山口伊太郎、山中 13名

【会長の時間】



原田武夫会長

皆さん、こんにちは。

今日は、大阪大手前ロータリークラブ、曾我部律夫様と、入会予定の柿丸様、森岡様を迎えての例会となります。

2月は、世界理解月間です。

当クラブでは、国際奉仕として、タイ、チェンライのアカ族の子供達に文具の支援をしています。

以前はインドのドン英語学校を設立し、長期間支援して参りました。

後程、初木国際奉仕委員長より卓話をお願いしています。勉強したいと思います。

当クラブでは、森会員がフィリピンにとって大切な書籍、スペイン統治に抵抗する事を主張するリサール1886年出版された、まぼろしの書籍70タイトル90冊をマニラ市国立図書館に寄贈されております。

私は、入会してまもなく、グラスゴー、カルガリー、インディアナポリス、台北と国際大会に出席し、世界中の方が、各会議にクラブ同志打合せを精力的に行われているのを目のあたりにしました。

大会会場には、各国ブースを開き、我がクラブもその一角にブースを開き、我クラブの国際奉仕活動の賛同、参加を呼びかけて参りました(1クラブ参加有り)。

出席したおかげで、オーストリー(ウイン)の私と同業の方を知り合い、その方がガバナーになった時、地区大会に招かれ、スロベニアの首都ブリャーナに行って参りました。交換留学生で来ていた若者が会場で迎えてくれ、通訳をしてくれました。

その地区の範囲は広くて5ヶ国(オーストリー、スロベニア、クロアチア、ボスニア、ハンガリー)で、ことばも違いますが、9年前までお互い戦争をしていた国も有り、呉越同舟で心配しましたが、その様な事は感じられませんでした。

その年のR1会長ステンハマー夫妻が、気さくに記念写真を撮って下さり、言葉は通じなくとも解ろうとすれば解り合えるものだと思います。

2月14日はお待ちかねのバレンタインです。皆様お楽しみですね！

翌日の15日は、趣味の狩猟期間が終了します。イノシシもこの日が来るのを指折り数えて徘徊しています。

気仙沼南RCより、わかめが届いております。お持ち帰り下さい。

以上で、会長の時間を終ります。



おめでとうございます！ 2月お誕生日



日野 守之 会員



川島 吉博 会員



瀬川 裕一 会員

2月はロータリーのカレンダーでは「世界理解月間」として指定されています。1905年2月23日に最初のロータリー例会が開催されたことで、現在この日は「世界理解と平和の日」と呼ばれ、この2月が「世界理解月間」となっています。2月には、多くのクラブが、この機会に国際奉仕活動を始めたり、他国のロータリークラブと連絡を取り合ったりし、世界のロータリークラブとの親善、平和、など相互理解等絶え間ない探求を推進するようRIは提唱しています。

世界を理解することも大事ですが、われわれの住む「日本」についても理解することが大切だと思います。個人的な偏見ですが、感じることをお話ししたいと思います。



初木賢司 委員長

■ 難しい世の中をどう生きるかは、もう先延ばしできない！

経済格差の拡大、暴力の蔓延、仕事の不安定化、国家の衰退など 現在の日本のみならず、どこの国も国内情勢が非常に不安定化しており、年毎にその傾向が強くなってきているように思います。

昔、サラリーマンは安定した職業であるといわれていましたが、もう昔話。企業は終身雇用を完全に捨て去ろうとしています。今企業は、正社員を雇うのをあらゆる手段で避けるようになっていて、この現象の直撃を受けたのが最初は若年層だったが、最近では中高年にも及ぶようになっていきます。ここ数年一流企業でさえ、不況時のリストラはもちろん、好況時のリストラも行うようになっていきます。会社の経営が傾けばリストラ、好況になったら不況に備えてリストラをしておき、後者のリストラは主に中高年が中心となっています。40代以上の中高年は、年功序列を前提に雇用しているので、コストの かかる中高年をリストラするのが効果的な削減となるようです。今後間違いなく言えるのは、ほとんどのひとは、「今より生活レベルが落ちる」ということです。

企業が人間切捨て人材使い捨てになっているのだから、多くの人々がそれに巻き込まれるのは目に見えています。日本人の給料は下がり続け、資産は減り続けていき、給料も減るのだから、貯蓄額も減る。高齢者が増えその高齢者が貯蓄を切り崩すのだから、貯蓄率も減る。少子高齢化が進む中、一部のブランド地区を除けば、多くの不動産の価値は下がるが、住宅の供給は増えているので、益々資産価格は下揺れしていく。ほとんどの日本人は、今よりも貧しくなり、生活レベルが落ち、中には生活困窮で追い詰められることにもなる。バブル崩壊以降、この流れは変わらず益々追い詰められている。これほどまで危険な状態になっているのだから、誰もが考えるのは「防衛」です。多くの高齢者が必死で消費を抑えており、これが日本の内需を停滞させているとも言われています。使えば金が消える。投資に失敗しても金が消える。失った金を、国も子供も誰も面倒を見てくれない。高齢者にとって、自分の身を自分で守るというのは、消費を極限まで抑えて、ひたすら資産を守ることだ。

一方、若者も車を買わない、旅行をしないなど、無駄金を使いたくないという、防衛意識が働いていると思います。賃金が低く、将来に夢も描けないので結婚はとでも……。失業して相手に迷惑をかけられない等結婚しないことも防衛の一種だと思います。中高年は、自分の面倒だけでなく、家族の面倒も見なければならぬため、消費を抑え、貯蓄を減らさないように、生活防衛をしている。今や日本中が精神的に追い詰められている状態です。このような現状で、内需が増えていくというのは、相当な構造改革・構造変化がない限り、日本経済は萎縮してゆきます。絶望的なまでに生きてゆく世の中になってきている。これは、もう先延ばしにはできない、重要なこれからの人生の課題であり、悪化していく社会環境の中で、私たちは何を武器に生き抜いていくか……。考えてみる必要があるではないだろうか？

そんな中で……………。

■ すばらしい何かを生み出す日本人の生き方

私は、TV番組の「和風総本家」という番組が好きで良く見るのですが、考え抜かれた製品、技術、デザイン、哲学、サービスなどを持った希少な企業が存在します。磨きぬかれたオリジナル、技、発想アイデアを持った希少な人が世の中には存在します。独自の「何か」を生み出す能力を持った企業や人こそ「本物」です。誰かが何かを成功させると「真似」や「パクリ」をする企業や人が山ほど現れます。しかしパクリ製品は気がつけばいつしか消えて後に残らないですね。

なぜ、オリジナルが最後に生き残るのか？その製品、技術、哲学、サービス、発想、アイデアにはそれが出来上がるまでに多くの試行錯誤が試され、そこで得た知識や経験が「物事の基本」となって製品

を支えているからです。パクリには土台を支える思想がないのです。たとえば、中国や韓国は、ありとあらゆる企業のパクリを行っており、国中に粗悪なパクリ製品が溢れています。なぜ、彼らは次から次へとパクリを行うのか、彼らは、オリジナルを生み出すこと、即ち基礎や基本をないがしろにしている。その理由は、基礎や基本をきちんと身に着けるといふ事は本当は、尋常でないほど単調で、単純で、根気のいる作業を延々と続けなければならないからです。

パクリを行う人間や企業はこの単純なことを飛ばして、表面や形だけをパクリ、世の中をごまかしている。最初は、だませるかも知れないが、それがオリジナルでない時、やがて人々に見透かされ、そして捨てられるのです。つまり、「基本を怠らずに鍛える」というのが、時代が変わっても古くならない「原理原則」なのです。

自分の全人生を費やしても構わないと思うことに全力集中で取り組み、基礎や基本を繰り返し反省する。そうして、基礎的な能力を身に着けても、それで世の中を渡っていけるのか、成功できるのか、大成できるのか分からない。そして、それで食べていけるのかも分からない。しかし、基礎や基本がないのに、いきなり他人のパクリをしてそれで生きていけないことだけは、はっきりとしている。

昔の人は、こういった基礎や基本を「型」と言っていました。型を身に着けるのに誰も見ていないところで死ぬほど練習していたし、それが日本人の底力を作り上げていました。日本人が「特異な民族」なのは、そういった基礎や基本を疎かにしないという人間が多く存在していて、基礎を追求する文化を持っていたからでしょう。日本人には、ありとあらゆる分野が「道」を極める対象となった。お茶を淹れるといった些細なものであっても、それは「道」となって、茶道となりました。最近、日本の土台が揺らいできたと思うようになりました。昨年はノーベル賞受賞で日本中が沸きあがりましたが、一方他人の論文をコピーしたりしてパクリをすることも多くなりました。

日本人には、パクリは似合わない。日本人はパクリの道を行くのではなく、優れたものを生み出せる民族であってほしいです。基礎と基本を積み重ね、一人ひとりが自分の分野で「道」を極めることが日本の復活になるのではと思います。自分の仕事を大切にしましょう！「日本で、本当にいいなあ」



ニコニコ箱	合計 ¥13,000	累計	¥747,240
-------	------------	----	----------

ニコニコ箱メッセージ(敬称略・順不同)

* 新入会員予定者を迎えた喜びに 藤原和彦
 * 誕生お祝いを頂いた喜びに！！ 日野守之
 * 誕生日祝を頂きましてありがとうございます！ 瀬川裕一

第1944回例会出席報告(2月4日)		
総会員数	出席者	出席率
51名	29名	64.44%
お客様 柿丸 裕 様 (例会見学) 森岡 順一様 (例会見学) 曾我部律夫様 (大阪大手前RC)		
第1941回 例会補正後 出席率 81.25%		
メイク 5名 欠席 9名 除外 3名		

○本日の配布物

- ①2月18日週報
- ②創立40周年記念事業会計報告
- ③第1回情報集会のお知らせ
- ④夜間例会並びに新会員歓迎会のご案内
- ⑤卓話資料(原会員)

○本日の回覧物

- ①秋のライラ報告書
- ②3月例会出席予定確認表

○地区行事等出席報告(敬称略)

2/14「ロータリーフェスティバル成功への集い 原田
 2/14I.M(インターシテミーティング)
 原田、日野、岩本、駕田、北川、北村、小北
 國田、岡山、橘、高島、山口伊太郎、山中
 2/17第8回地区災害支援委員会 初木

○地区行事等出席予定(敬称略)

2/28地区財団補助金管理セミナー 小北、上山、原
 3/7 PETS及び地区チーム研修セミナー
 小北、木崎、林宏毅
 3/28本・次年度社会奉仕委員長会議 稲田、源本

Rotary 発行 KUZUHA ROTARY CLUB



国際ロータリー 第2660地区
 創立:1974年5月30日 承認:1974年6月25日
 クラブ名称変更承認:2005年6月6日
 会長 原田 武夫
 広報委員長 原 正和

〒573-1121大阪府枚方市楠葉花園町14-2
 樟葉パブリックゴルフクラブハウス2F
 電話 072-855-5125 FAX 072-855-5180
 Email: info@kuzuha-rc.jp
 URL: http://www.kuzuha-rc.jp/